

# 強制連行 朝鮮人追悼碑

## 許可更新、県が保留

### 「政治的利用」批判受け

県立公園の群馬の森（高崎市綿貫町）に市民団体が10年前に建立した朝鮮人強制連行の犠牲者を追悼する碑をめぐる県の対応に、注目が集まっている。「公園を政治的に利用している」といった批判を受け、市民団体が申請した設置許可の更新を公園管理者の県が保留する事態が続いているからだ。「記憶 反省 そして友好」と刻まれた碑の今後が宙に浮いている。



## 県立「群馬の森」に10年前設置

碑は2004年、市民団体「群馬朝鮮人・韓国人強制連行犠牲者追悼碑を建てる会」が、戦時中に強制連行され、県内の鉱山や建設現場で働いて死亡した朝鮮人や韓国人を追悼する目的で建てた。日本語とハングルで「かつてわが国が朝鮮人に対し、多大の損害と苦痛を与えた歴史の事実を深く記憶にとどめ、心から反省し、二度と過ちを繰り返さない決意を表明する」などと記されている。

建立前には、01年に会が提出した用地の貸与を求める請願書が県議会で趣旨採択され、その後、当時の小寺弘之知事が群馬の森への設置を認めた経緯がある。県は04年3月に碑の設置を許可。同年4月に除幕式が

「記憶 反省 そして友好」と書かれた追悼碑。裏面の碑文も日本語とハングルで記されている。高崎市綿貫町

あった。

後継の市民団体「記憶 反省 そして友好」の追悼碑を守る会」の猪上輝雄事務局長は「碑文の原案にあった『強制連行』の文

### 追悼集会の内容、県が照会

今回、この碑が再び注目を集めているのは、設置許可の更新期限を1月31日に迎えたからだ。

「守る会」は12年まで毎年、碑の前で追悼集会を開いてきた。県都市計画課などによると、12年の集会後、県内外からメールや電話で「碑文の内容が反動的だ」「碑の前で政治的な活動がなされている」などと、更新を認めないように求める声や碑の撤去を求める声が寄せられ始めた。

守る会は昨年4月の集会は公園外で開き、同12月に更新許可を申請した。県は



昨年に続き、今年の追悼集会も屋内で開かれた。参加者は追悼碑の写真に向かって献花していた。19日、高崎市東町

言を県や国とすり合わせて『労働動員』に決着させるなど関係各所に配慮した。県幹部や自民党県議も尽力してくれた」と振り返る。

申請を受けると、守る会に集会内容の報告を書面で求

### 団体側「県の質問、行き過ぎた」と

県に対し、守る会の共同代表の一人、角田義一・元参院副議長は「県の質問は言論の自由、集会結社の自由、表現の自由を侵害するもので行き過ぎた。県が『追悼の趣旨に反しない行為を』と指導してくれば対応する用意がある」と協議を望む。猪上事務局長も「碑はもともと県当局の理解を得て立てたもの。アジアの友好と発展のために残

めた。在日本朝鮮人総連合会発行の「朝鮮新報」のウェブ版記事の「コピ」を添えて「内容は事実と相違ないか」などと同会に照会したほか、「記事に掲載されている発言は日本政府を批判するなど政治的であると考えるが、貴殿はどう考えるか」「発言者に対して停止を求めたり抗議を行ったか」などと問うものだ。

県都市計画課はこの経緯について、公園施設で「宗教的、政治的行為を行わない」と定める都市公園法に基づくと説明する。一方、守る会は「我々が回答すべき内容ではない」と拒否を続けている。

「守る会」は12年まで毎年、碑の前で追悼集会を開いてきた。県都市計画課などによると、12年の集会後、県内外からメールや電話で「碑文の内容が反動的だ」「碑の前で政治的な活動がなされている」などと、更新を認めないように求める声や碑の撤去を求める声

「守る会」は12年まで毎年、碑の前で追悼集会を開いてきた。県都市計画課などによると、12年の集会後、県内外からメールや電話で「碑文の内容が反動的だ」「碑の前で政治的な活動がなされている」などと、更新を認めないように求める声や碑の撤去を求める声

「守る会」は12年まで毎年、碑の前で追悼集会を開いてきた。県都市計画課などによると、12年の集会後、県内外からメールや電話で「碑文の内容が反動的だ」「碑の前で政治的な活動がなされている」などと、更新を認めないように求める声や碑の撤去を求める声

（馬場由美子）